

川野卓志記念美術館

TAKASHI KAWANO MEMORIAL MUSEUM



(この表紙はフィクションです)

23期 川野 卓志



初めての絵画に出会って

23期 川野卓志 たかし



23期の川野卓志と申します。
いつの間にか喜寿を迎えた正真正銘のオジンでございます。
いつも北辰会の皆様方それぞれの投稿を拝見し、色んな人生を積み重ねておられるなあと、若かりし頃の働きながら通った日々を、懐かしく思い出しております。

全く絵画には無知の小生が70才を過ぎてから絵画の手解きを得て、趣味の一つとして楽しい時間を過ごしている今日この頃を、恥ずかしながら紹介いたします。

退職後はハイキング、ウォーキング、囲碁、音楽鑑賞などやっておりましたが、体にも変調を感じて来まして、新しいことで何かないかと思ってた時に、住んでいる松原市の広報で「初心者の絵画教室」を見たのでした。小旅行で簡単なスケッチでも描けたらと申し込みをした所、抽選に当たり受講する事になりました。週1回・2時間で10回の2カ月半の期間でした。

最初は何も分らないまま、鉛筆と消しゴム、ボックスを持参し、筒・球・野菜・花…。1ヶ月ほどで絵具でキュウリ、ナス、玉ねぎや花一輪などの色付けする事になりました。

デッサンをするだけでも形が出来上がらず、色付けするのも色彩が上手く出せないまま、少しずつ仕上げていくのですが、それが段々楽しくなって来たのです。初心者用の絵画の本を買って来て、画家の絵を真似する事もいいと教わり、やったりしました。

教室を終了してから2~3か月後から景色を描いて見たいと思って、カレンダーの写真や本の絶景画像を見つけたりして描き始めました。その折に、同じ先生の講座で1ヶ月に1度、2時間OBの集まりに参加、描いた絵をチェックして貰っている内に取敢えず家の壁に飾れる様になりました。

それから毎月の例会となり、今では早や5年が過ぎ、自分の趣味の1つとして楽しい時間を過ごしているのが信じられません。

特にコロナ禍ではステイホームも気にせず絵画をすることが出来、やってて良かったと思っております。これまでにも他の趣味の会の人や「趣味はないんです」と言われる方に絵画を勧めています。毎年春・秋の2回松原市の同教室の募集がある事を伝えて、何人かの方が入会して、小生同様楽しんでおられます。

これから先は100才までに何処かの美術展に1枚だけ出展出来ればと夢を見ている次第です。



広島・原爆ドーム（世界遺産）【F6】



上高地・河童橋【F6】



水晶橋・大阪中之島【F6】



デルフトの街・オランダ【F8】



シュプレーバルト・ドイツ【F6】



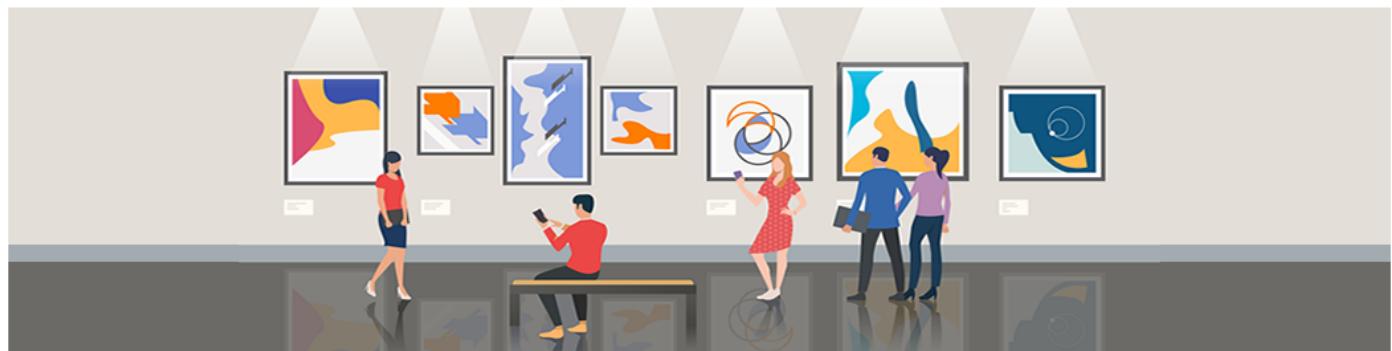
伏見の里【P6】



石の上にも三年いれば暖まる

23期 常任幹事 畑地 豊

去る2018年3月、「美山町の『かやぶきの里』に行って来たよ！」と言って川野さんに電話したところ、数日後に彼から一枚の写真が送られてきました。良く見るとそれは写真ではなく、彼が描いた「水彩画」作品だったので。私はその数日前に現地に行ってその風景を目に焼き付けて帰って来たばかりなので、この絵を拝見して「上手に描けている、素晴らしい！」と感嘆しました。私は即座に「この絵を北辰会HPに掲載させて欲しい！」と依頼をしましたが、「地元の絵画教室で学び始めたばかりなので、とてもとても公開して皆様に見て頂くなんてレベルのものでは有りません」と丁重に、尚且つ、しつこく懇願する私にかたくななまでに、これを固辞されたのでした。



私は北辰会のHPに「絵の世界」の作品を投入したかったのです。想えばお願いをしてから既に3年が経過しました。其の間何度も電話でおしゃべりするときに、同じ投稿のお願いを繰り返していました。しかしながら彼の意志は固く、「Yes」はもらえませんでした。一時は一人ひとりそれなりのお考へ（人生訓か）をお持ちなのであろうから「くれくれ乞食」はやめた方が良いのかな、川野さんのお気持ちを大事にしないといけないのかなと、私の気持ちは一時逡巡し始めました。しかし私の気持ちは、23期の畠地そのものの「個」ではなく、「北辰会は北辰会生みんなの心の拠りどころーオアシスたれ！」と言う会の存在意義目標にあるのでした。母校定時制課程も2009年に閉課程となり、後に続く後輩諸君はその時以後は有りません。北辰会も徐々に高齢化の一途を辿り、会員数の自然減少化は否めないことで有り、増えることは有りません。これはまさに宿命です。さすれば現有の元気人間がさらに結束を強くして、この元気印団体をさらに元気にしていこうではないか！の思いで「作品投稿のお願い」をさせて頂いて來たのでした。

2021年8月、例によって暑中見舞いのごきげん伺いの架電をすることになります。そして駄目もとで、またもやしつこく「HPへの投稿」の相談を持ち掛けたところ、あにはからんや「肯定的」雰囲気の返事を頂けそうになったのです。今回ももとよりあきらめかけていただけに、36℃の真夏の暑さも吹っ飛びそうな安堵感、感激がもたらされました。（オリンピックの金メダルの心境です）

あなたのご決断は、しつこい一人私に下さったものでは有りません。

オール北辰会生に「エール」を贈って下さったものでしょう！

不肖、幹事の一人として、有りがたく厚く感謝の意を表する次第です。

「川野画伯永遠なれ！」 ありがとうございました。

文化的芸術作品、秋を待たずして今「北辰会HP」に登場です。

（2021年8月19日）

現地の写真
(ホームページから)



2018年1月

川野さんから
受け取った画像

あとがきのあとがき

その後川野さんと話をする機会があった。彼がホームページにUPすることに対してかたくなに拒否されていた理由が少し判明した。

「貴君が上手に描けていると褒めてくれてうれしいが、自分自身はまだまだこれらの絵には “川野本人の川野流儀が表れていないのです” だから公開はおこがましいと申し上げているのです」とのたまわれた。

彼の本意が聞けて嬉しく思うとともに、無理やり説得してしまい、申し訳なかったということと、その様な高度な事情がつかめない自分自身のお粗末さに、おおいに反省の気持ちを有することとなりました。

みなさん！願わくば彼のお気持ちをお汲み取り頂き、ご鑑賞のほどよろしくお願い申し上げます。（完）

（2021年8月）

